

平成29年度 全国学力・学習状況調査の結果について

平成29年4月に全国の6年生を対象に実施した全国学力・学習状況調査の調査結果がまとまりました。

この調査結果を踏まえ、今後の本校としての取り組みについてご説明いたします。

国語A：主として知識	全国平均正答率	74.8
	神奈川県平均正答率	73.0
	勝田小平均正答率	77.0
国語B：主として活用	全国平均正答率	57.5
	神奈川県平均正答率	57.0
	勝田小平均正答率	58.0

算数A：主として知識	全国平均正答率	78.6
	神奈川県平均正答率	77.0
	勝田小平均正答率	84.0
算数B：主として活用	全国平均正答率	45.9
	神奈川県平均正答率	46.0
	勝田小平均正答率	51.0

A問題とは、「実生活において大切に常に活用できるようになっていることが望ましい知識や技能が身についているかを見ます。」 →知識

B問題とは、「知識や技能を生活の場面で活用したり、課題解決のために構想を立てて実践し評価・改善したりする力がついているかを見ます。」 →活用

勝田小では、国語と算数のA問題、そして算数B問題に関しては、平均正答率が全国平均を上回っていますが、国語のB問題に関しては、ほぼ全国平均と同じくらいの結果となりました。算数に関しては、基礎的な知識はもちろんのこと、活用に関しても力をつけているということがわかります。

教科別に見ると、国語では、「読む能力」の領域の平均正答率が、問題Aではほぼ全国平均と同じでしたが、問題Bの活用問題の方では、「読む能力」が、全国平均よりも約4ポイント下回っていました。そこで今後は、読んだ内容をどのように活用するのか、どこに着目して読むべきかを常に意識させて読むよう支援していき、文章をただ読むのではなく、目的に応じて読むという意識がもてるようにします。また、活用問題に対する学力を向上させるために、読解問題をといたり、根拠を明確にして自分の考えをまとめたりすることを授業に取り入れ、改善を図っていくようにします。

算数では、算数Aも算数Bでもすべての領域において、全国平均を上回っていました。どの領域も全国平均は上回っていますが、証明問題については、やや苦手になっている児童がいるようですので、今後の授業においても根拠を明らかにした上で、見通しをもって順序よく説明ができるように繰り返し指導していきます。また、割合についての理解度も少し低いことから、日常生活の事象の解決に、割合や単位量当たりの大きさを活用することで、よさや働きに関心をもたせるようにしたり、割合の学習では、基準量、比較量、割合の関係を数直線で表わす等、数量の関係を表現する活動を多く取り入れたりしていきます。今まで、算数の学習で取り組んできた問題の解き方や考え方を説明する時間を多く取り入れ、お互いに学び合う場面を作り、技能力や表現力を向上させていくことは、今後も継続していくようにします。

児童質問紙の回答結果では、ほとんどの項目に関して、全国平均を上回る回答状況となっており、多くの児童が学校生活に満足していることがうかがえます。毎日決まった時間に寝て、決まった時間に起きていると答えた児童は多いですが、話を聞いてみると就寝時間が遅くなっているようです。4月の段階では、携帯電話やスマートフォンを持っていないという児童が全国平均よりも4%くらい低い数値でした。持っている児童でも、約半数の児童が1日の使用時間が1時間以内ということでした。この状況が今後も続いていくとよいのですが、毎日2時間以上使用していると回答した児童も約10%近くいました。使い方などについては、今後も家庭と連携しながら指導をしていく必要はあると考えています。

毎日の家庭学習（塾等も含む）も、毎日1時間以上していると回答した児童が約70%もいることから、家庭学習はしっかり行われていることがうかがえるので、中学校へ進学してからのことも考えると、今後もしっかり継続していくことが大切です。唯一気になる項目は、読書についてで、全くしないと回答した児童が全国平均よりも6%も多いので、学校でもしっかり読書の時間を確保するなどして、読書量を増やしていくようにしていきます。